

【草花の部屋】

アネモネ (キンポウゲ科イチリンソウ属 *Anemone coronaria*)

和名：アネモネ

別名：ボタンイチゲ (牡丹一華)、ベニバナオキナグサ (紅花翁草) 他

英名：Anemone、Windflower

キンポウゲ目 多年草

原産地：地中海沿岸

花言葉：はかない恋、恋の苦しみ、見捨てられた、見放された



花色：白、赤、桃、青、紫、

← 写真-1, 2 アネモネ

撮影日：2024年2月14日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-3 アネモネの葉

撮影日：2024年3月14日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん





← 写真-4 アネモネ(桃)

撮影日：2024年3月4日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

アネモネは鉢植えでも切り花でも流通があり、人気のある春の花の一つで、地下に根茎あるいは塊根をもつ多年草です。先が細かく裂けたような形状の葉を持ち、葉の間から伸びた花茎の先に1輪の花を咲かせます。

花びらは放射状に開き、中心には多くの雄蕊を持つのが特徴で、花びらの

ように見えるのは萼です。ただし便宜上花びらと呼ばれているそうです。

開花する季節は春です。夏の暑さが苦手な冬に芽吹き春に花を咲かせ、夏には地上部を枯らして夏越しをします。花は一重のものから八重咲きのものがあり、草丈も切花用の高性なものから矮性種まであります。現在では様々な園芸品種が栽培されているそうです。ただしアネモネの花は極端な寒さに弱く、花首が折れてしまうことがあります。開花した鉢を外に出すのは、霜が降りないくらいに暖かくなってからにするとうまいそうです。

球根または実生から栽培できますが、球根から栽培する方が簡単だそうで、水はけと日当たりのよい場所に植えつけ、多肥を避けて管理すれば、何年も植えっぱなしで花を咲かせ続けることができるそうです。

古くから人との関わりが深い植物で、神話や伝説にも多く登場しているそうで、ヨーロッパ南部から地中海東部沿岸地域の原生地から各地への伝播には、十字軍や巡礼者が関わっているそうです。

全草にプロトアネモニンを含む。茎を折ったときに出る汁に触れると皮膚炎・水泡を引き起こすことがあるので、園芸時には注意が必要です。

<ちょっと一言>

アネモネは、クリスマスローズ、ラナンキュラス、クレマチスなどと同じキンポウゲ科の植物で、アネモネ属は温帯から亜寒帯にかけて約100種が分布しているそうです。そのなかにアネモネ・ホルテンシス (*Anemone hortensis*)、アネモネ・パボニナ (*A. pavonina*)、そして、これらの交雑によりできたとされているアネモネ・フルゲンス (*A. ×fulgens*) があり、さらにフルゲンスが交雑したなかから選抜されたのが、アネモネ・コロナリア (*A. coronaria*) とされています。現在、園芸的には、アネモネといえば、このコロナリアを指すのが一般的だそうです。